

1. 「道の駅」の整備目的

阿久根市の特徴

- ・阿久根漁港を中心に古くから海上・陸上交通の要衝として海運業・商業などで栄えたまち
- ・国道3号、国道389号や県道等の主要幹線道路が交差
- ・南九州西回り自動車道「出水阿久根道路」は全線開通

南九州西回り自動車道 阿久根川内道路

- ・阿久根市と薩摩川内市を結ぶ「阿久根川内道路」が平成27年に新規事業化
- ・広域的な交流ネットワークの形成に必要な幹線道路として地域活性化に大きく寄与
- ・災害時における広域避難や物資輸送にも重要な役割
- ・阿久根市と近隣の薩摩川内市や長島町などを含めた『南九州西岸地域』のつながりが、「軸としての太い絆」により結ばれる

- ・阿久根市が持つ「食」や「自然」に、歴史や文化のストーリーを付加して観光コンテンツとして磨き上げるとともに、地場産品やサービスを提供する空間(施設)形成が必要
- ・『南九州西岸地域』が互いに協力・連携した地域づくりを行うことで、その効果をより広域的に波及させることが可能



サンセット牛之浜景勝地「道の駅」
地域の個性、魅力を生かして人を呼び、『南九州西岸地域』の活力を生み出す拠点

2. 「道の駅」整備の必要性

1. 南九州西回り自動車道利用者に対する快適な休憩機能の創出

既存の「道の駅」や国道沿いにある公設駐車スペースだけでは南九州西回り自動車道開通後の休息需要の高まりに到底対応できない

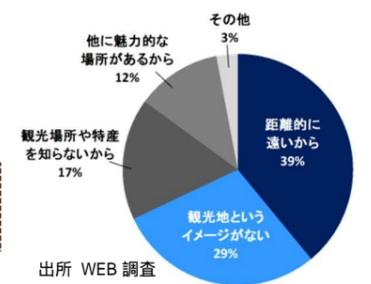


国道3号線 公設駐車スペース 位置図

南九州西回り自動車道利用者の休息需要に的確に対応し、かつ利用者の利便性向上に資する安全快適な休憩機能の創出が求められる

2. 来訪者や道路利用者に対する効果的な情報発信機能の創出

観光地のイメージづくりや魅力的な観光資源の発信に課題が残る状況



地域資源や観光コンテンツなどの魅力(みどこい)やリアルタイムな道路情報等を、一体的かつ効果的にプロモーションできる機能の創出が求められる

3. 阿久根市と近隣地域がつながる地域連携機能の創出

3-1. 広域交流拠点の形成

- ・南九州西回り自動車道の開通による、人・モノの流れがより活発になる大きなチャンスを活かす
- ・阿久根市、薩摩川内市、長島町など連携した“太い絆”のもとに、地域の強みを最大限に生かした地域活性化を図る

- ・地域の魅力(みどこい)を、南九州西回り自動車道を利用して訪れる方々に対して実際に感じて(うまい、きれい、楽しい、いやされる)もらえる機能
- ・阿久根市、薩摩川内市、長島町にまた来てみたいと思っただけのような“おもてなし”を提供する機能
- ・来訪者と阿久根市民との交流機会、市民同士の交流機会を創出する機能

3-2. 広域防災拠点の形成

災害発生時の応急対応、復旧・復興のための体制や取り組み拠点の形成が重要

市民の安全・安心な暮らしに寄与し、災害発生後の広域的な応急対応や復旧・復興の拠点機能の形成が求められる

3. 「道の駅」整備候補地

大川IC(仮称)近傍地

- ・南九州西回り自動車道(八代JCT～鹿児島IC)のほぼ中間位置
- ・牛之浜景勝地をパノラマビューで臨むことが可能
- ・道の駅「樋脇遊湯館」、「長島」、「黒之瀬戸だんだん市場」と一定の距離を確保
- ・南九州西回り自動車道を利用した災害応急活動や支援物資拠点として機能



「道の駅」候補地

4. 整備コンセプト

みどこい溢れる南九州西岸を楽しみ、元気になり地域がつながる道の駅

基本的方向性



- 休憩機能**
南九州西回り自動車道や国道3号利用者に対する利便性の高い、安全・快適な休憩空間の形成
- 情報発信機能**
地域の“みどこい”や道路状況等を効果的に情報発信する空間の形成
- 地域連携機能・広域連携機能**
・地域の魅力(みどこい)を五感で感じることのできる広域交流拠点の形成
・市民同士の交流機会創出拠点の形成
- 地域連携機能・広域防災拠点**
・災害発生後の広域的な応急対応や復旧・復興拠点の形成

基本方針

- 方針1 | 南九州西岸地域が一体となって魅力(みどこい)を感じ、伝え、ファンを増やす道の駅
- 方針2 | 南九州西岸の絶景を五感で感じ、安らげる道の駅
- 方針3 | 災害に備え、防災について学べる道の駅
- 方針4 | 市民が集い、活動と交流により元気を創る道の駅

「道の駅」阿久根を考慮した機能配置方針

「道の駅」阿久根の機能は全て、南九州西回り自動車道の開通に伴う交通需要の増加や南九州西岸地域の広域連携に対応した施設内容・規模にリニューアルしてサンセット牛之浜景勝地「道の駅」に機能移転する。現状の施設状況について技術的な検証を行った上で、改めて検討する必要がある。国が所有する施設は、国の意向に沿って対応を検討する。

導入機能

- ・休憩機能: 駐車場施設、トイレ施設、休憩施設
- ・情報発信機能: ビジターセンター、多様な案内施設
- ・地域連携機能: 飲食施設、農林水産物直売・物産施設、地域コミュニティ施設、防災施設

5. 機能別必要規模

必要駐車台数の算定結果

必要駐車台数	小型車	大型車	身障者	合計
	185台	26台	5台	216台

計画交通量: 20,500台/日(平成42年南九州西回り自動車道予測交通量¹⁾)

¹⁾ 平成42年予測交通量: 都市計画道路阿久根薩摩川内線環境影響評価書(平成26年7月鹿児島県)

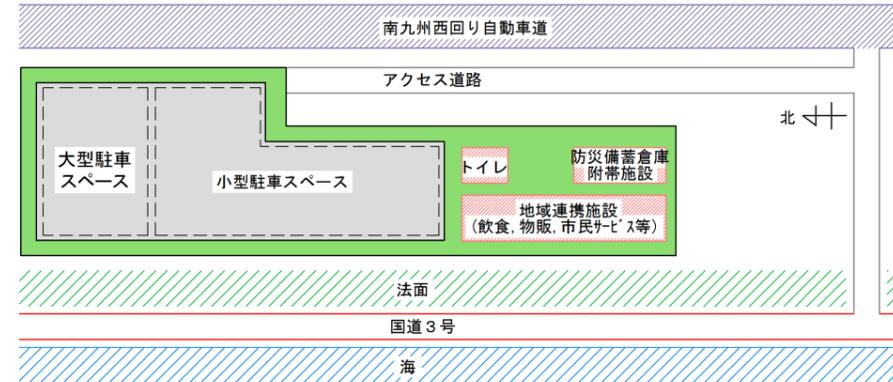
導入機能の必要施設規模

施設名		必要施設規模	
休憩機能	トイレ施設	290 m ²	
情報発信機能	情報発信施設(ビジターセンター)	210 m ²	
地域連携機能	飲食施設	310 m ²	
	農林水産物直売・物産施設	販売施設	420 m ²
		加工施設	200 m ²
		地域コミュニティ施設	250 m ²
	集会施設	90 m ²	
	コンビニエンスストア・市民向けサービス	160 m ²	
	防災施設(防災備蓄倉庫: 附帯施設倉庫と併設)	100 m ²	
管理事務所		50 m ²	
附帯施設		470 m ²	
計		2,300 m ²	

6. 配置計画

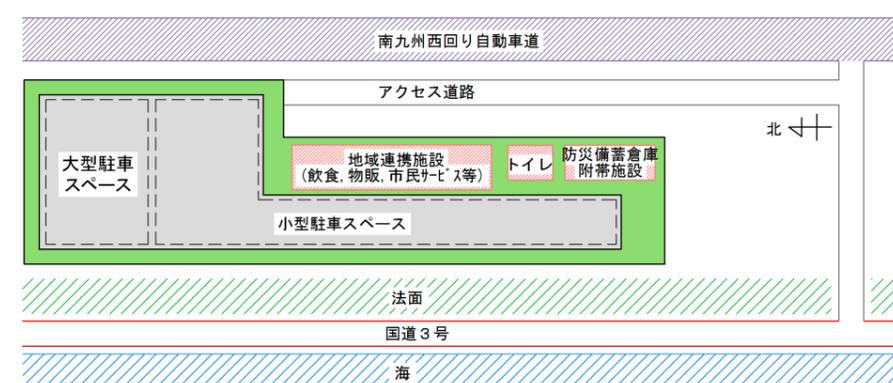
配置計画(案)として、3案を提示しています。

ケース1



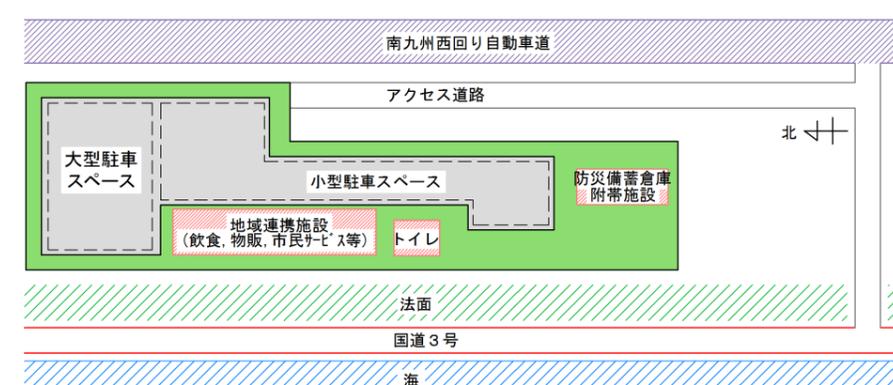
- 【配置の考え方】
- ・駐車スペース
敷地北側に集約
 - ・地域連携施設等
敷地南側に集約

ケース2



- 【配置の考え方】
- ・駐車スペース
敷地北側、西側に分散
 - ・地域連携施設等
敷地東側に集約

ケース3



- 【配置の考え方】
- ・駐車スペース
敷地北側、東側に分散
 - ・地域連携施設等
敷地西側と南側に分散

7. 道の駅概算事業費

項目	事業費(千円)	備考
設計費	97,000	地質調査、造成設計、アクセス道路設計、建築設計等
用地取得費	28,000	土地評価、測量、用地補償費等
造成工事費	1,016,000	敷地造成、駐車場、建築施設の敷地整備費等
アクセス道路整備工事費	210,000	造成、舗装等
建築工事費	902,000	トイレ、地域振興施設、防災備蓄倉庫、附帯施設等
道の駅概算事業費	2,253,000	